

2 概況調査計画（案）

2.1 目的

本調査は、各モデル地域における漂着ゴミの分布状況、漂着ゴミの特性及び漂着場の特性について、既存データ、情報を収集し整理することで、モデル地域におけるクリーンアップ調査範囲の位置付け（代表性）を明らかにすることを目的とする。

2.2 調査対象地域

概況調査の対象は、モデル地域の海岸（調査範囲）と自然条件が同一と見なされる一連の海岸とする（表 1）。

表 1 概況調査の対象範囲

県名	海岸名	対象地域
山形県	酒田市 飛島西海岸	飛島の全海岸
	酒田市 赤川河口部	本土側海岸線
石川県	羽咋市 羽咋・滝海岸	本土側海岸線
福井県	坂井市 梶地先海岸～安島地先海岸	本土側海岸線
三重県	鳥羽市 答志島 桃取東地先海岸	本土側海岸線のうち 桑名郡木曾岬町～鳥羽市 答志島の全海岸
長崎県	対馬市 越高海岸	対馬の全海岸
	対馬市 志多留海岸	
熊本県	上天草市 龍ヶ岳町 樋島海岸	本土側海岸線
	天草郡 苓北町 富岡海岸	天草上島、天草下島の全海岸
沖縄県	石垣市 吉原海岸～米原海岸	石垣島の全海岸
	竹富町 住吉～星砂の浜～上原海岸	西表島の全海岸

2.3 調査内容

文献及びヒアリング調査

漂流・漂着ゴミに関する特性を、「漂着ゴミそのものの特性」と「ゴミが漂着する場所の特性」の 2 つに大別し、それぞれに係る要素について調査するため、既存データ及び情報の収集・整理、関係部局及び関係組織へのヒアリングを行う。各要素に対して必要となる情報について表 2 に示す。

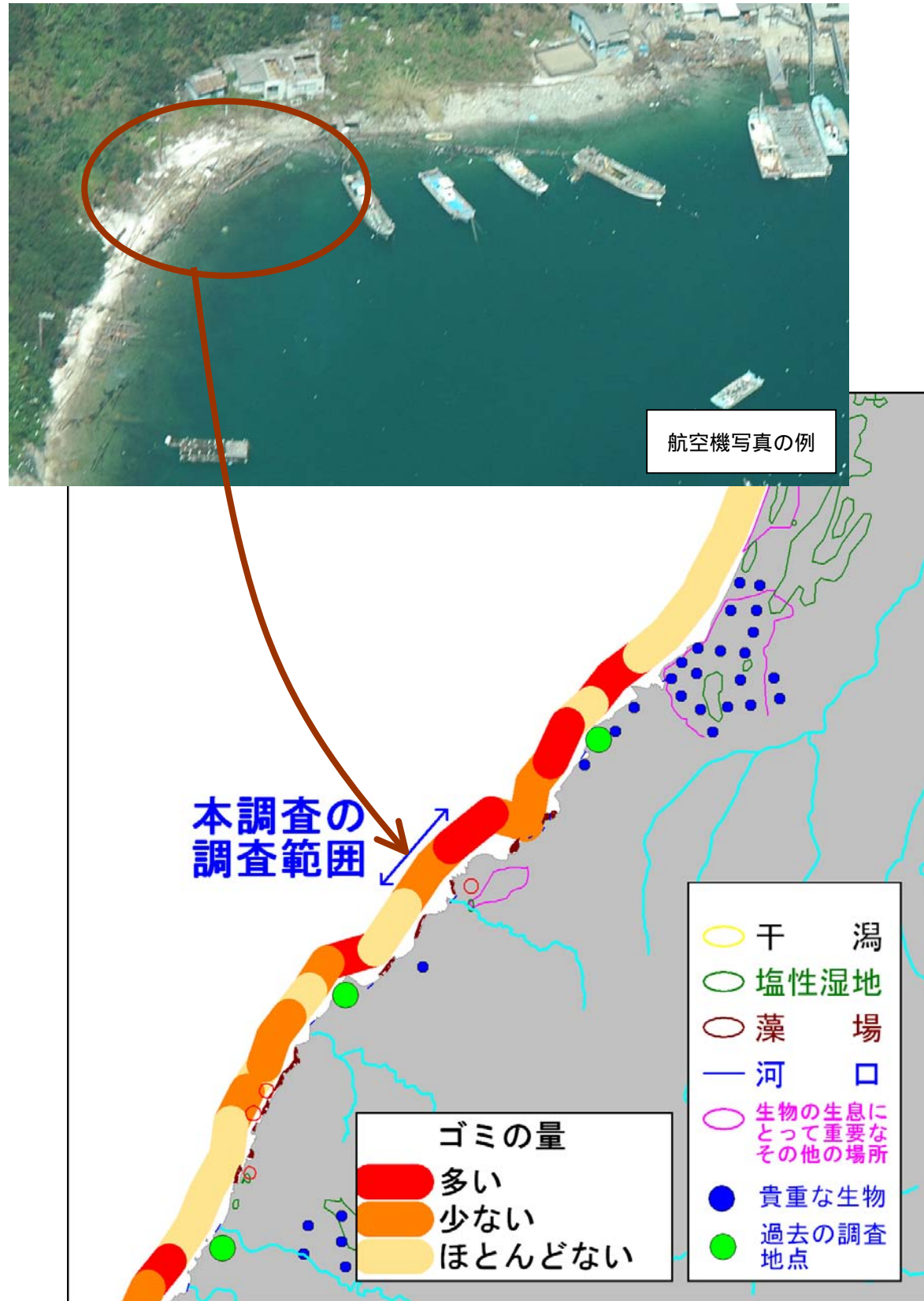
航空機調査（漂着状況の確認）

航空機により、概況調査の対象である 11 海岸線を対象に高度 350 m 程度から写真撮影を行い、ゴミの漂着状況を確認する。撮影した航空写真では、海岸にある 30cm 程度の物体について識別可能である。

ゴミの漂着状況の評価は、ゴミの量を「多い」、「少ない」、「ほとんどない」の 3 段階で区分し、地図上に表現する（図 1、図 3）。

表 2 漂流・漂着ゴミに関する要素と必要な情報

大項目	中項目	小項目	細目	必要な情報	
ゴミに関する特性	実態調査	調査主体、組織	連携体制	主催者、参加者、市町村、NGO、ボランティアの役割	
			各種手配	地元住民、漁業者との協力関係 必要資材の品目、調達方法、費用	
		調査方法		コドラート法、写真撮影	
		調査結果	ゴミの総量及び種類別量	重量、容量、重量/面積（距離）等	
			発生源	国内、国外	
		処分・処理方法	リサイクル	リサイクルの有無と方法	
			現地処理	埋設、焼却、減容処理、その他	
			現地外処理	輸送方法（車両、船舶） 処分方法（焼却、埋設、その他）	
		その他	実施時における環境配慮	植生、昆虫などに対する保全対策	
		漂着ゴミの回収・処分体制	処分事業計画 清掃、回収、運搬、処分等に関する活動	連携体制	処分事業計画の有無 海岸管理者、市町村、NGO等、ボランティア、河川管理者、漁業者などの役割 地元住民との協力関係
	各種手配			必要資材の品目、調達方法、費用	
	回収方法			人力、機械など	
	処分・処理方法			リサイクルの実施と方法	
				現地処理（埋設、焼却、減容処理など） 現地外処理（受入可能施設） ・輸送方法（車両、船舶） ・処分方法（焼却、埋設など）	
その他	活動時における環境配慮			植生、昆虫などに対する保全対策	
漂着場の特性	漂着のメカニズムに関する条件	流況	海流、潮汐流、沿岸流、海浜流		
		潮位差	潮位		
		波浪	波高、波向		
		風況	風速、風向		
		地形	自然海岸	砂浜、干潟、岩礁	
			人工海岸	直立護岸、防災構造物、人工海浜	
			海岸線の形状	海岸の勾配 入り組み度、湾の向き	
		河川	河口	河口の位置 河口からの距離 河川流量	
		海岸の価値	自然的価値	貴重な生物	ウミガメの産卵場、貴重種、植生など
				貴重な地形、地質	鳴き砂、星の砂など
	国立公園等			国立公園等の有無	
	歴史・文化的価値		景観	景勝地	
		歴史・文化的遺産	神社など		
	アメニティ	自然とのふれあい、親水性	レジャー、散策など		
文化、伝統		祭りなど			
観光資源		観光資源の有無			
	レクリエーション	海水浴、潮干狩り、釣り、マリンスポーツなど			
社会条件	海岸利用	港湾区域	港湾の位置		
		漁港	漁港の位置		
		防災（津波、高潮）施設	防災施設の位置		
	河川利用	流域人口	流域人口 流域市町村のゴミ処理量		
管理		海岸管理者、河川管理者			
漂着状況の確認	航空機調査		航空写真	調査範囲のゴミの漂着状況との比較	



2.4 調査結果取りまとめ

以上の調査結果を取りまとめた結果から、下記の成果が得られる(図2)。この成果から、モデル地域におけるクリーンアップ調査区域の位置づけ(代表性)を明らかにする。

- 「漂着ゴミに係る海岸評価マップ」
- 「漂流・漂着ゴミ対策の現状」
- 「調査対象地域の特性」

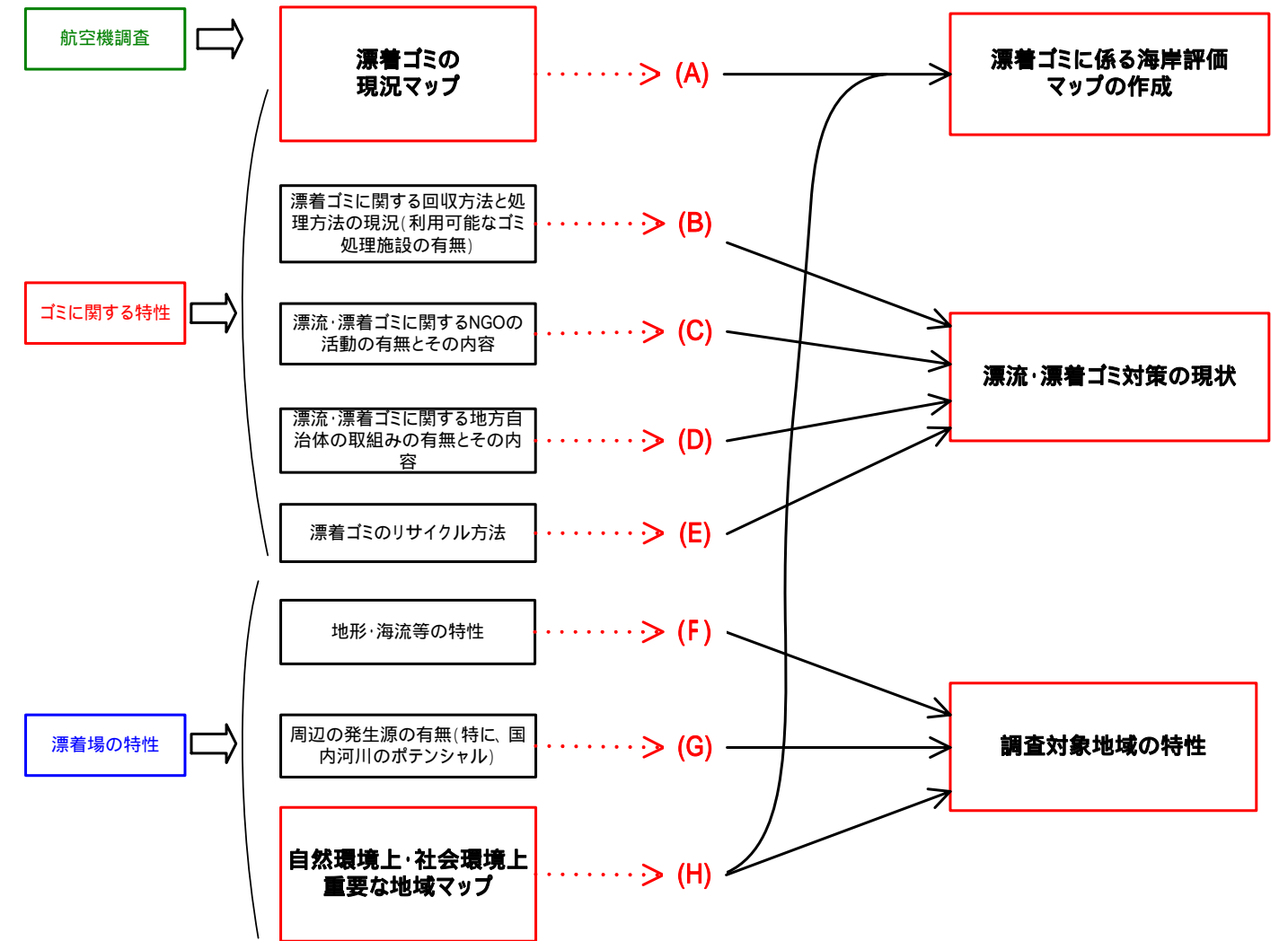


図2 得られる成果